

新宿

Let's協働

みんなが力を
出し合えば大きな力が
生まれるね

「協働」で暮らしやすいまちづくり！

事例1 ▶ 新宿スポーツ環境推進プロジェクト

事例2 ▶ 商店街ホームページ活性化事業

事例3 ▶ 地域防災の担い手育成事業

事例4 ▶ 地域の担い手「ごっくんリーダー」による
「食べる力」推進プロジェクト

区と団体に聞く「協働」だからできたこと

ほかにもこんな協働事業！

「協働事業提案制度」が生まれ変わります！

2018
FEBRUARY

「協働」で暮らしやすいまちづくり！

「協働」して事業に取り組むとはどういうことなのでしょう。森の仲間たちの例を見てみましょう！

もっと知りたい「協働」！

この冊子「Let's新宿協働」も、区民と新宿区が「協働」して作成しています。「協働」について素朴な疑問にお答えします！

Q 「協働」とはなんですか？

A NPOとNPO、企業とNPO、行政とNPOというように、2つ以上の団体が共通の問題を解決するために、協力して取り組むことを言います。お互いの特性や得意分野を活かし、力やスキルを提供し合うことで相乗効果が発揮できるんですよ。

Q なぜ、協働が必要なのですか？

A 新宿区には子どもから高齢者、外国人や障害のある人等様々な人が暮らしています。社会が変化の中で、様々な要望や解決すべき問題が出ていますが、行政だけでは対応が難しくなっ



キョードー森の仲間たち



シマリスくん
元気いっぱい、好奇心いっぱいの男の子。



キツツキさん
どんぐり出張所の厳しく優しい女性課長。



フクロウさん
森のみんなの相談役。



モモンガさん
口は悪いけど根はやさしい姉御肌。



ハムスターくん
のんびり、まったり。実は意外と苦勞人？

Q 新宿区の今後の協働事業は？

A 「協働事業提案制度」は平成30年度から新たな支援制度となる予定です。（詳しくは16ページをご覧ください）また、「新宿NPO協働推進センター」*では、NPO等の区内社会貢献活動団体の活動の支援・普及・啓発をすることで、多様な主体との「協働」を推進していきます。
*「協働」を通じて、より暮らしやすい新宿区を目指します！

Q 「新宿区協働事業提案制度」って？

A この冊子のテーマでもあり、地域の暮らしを支援するための制度です。NPO等の社会貢献活動団体に向けて、その専門性や柔軟性を活かした事業提案を、区が募集します。そして、提案団体と区が「協働」することで地域の課題を効果的に解決し、住民の方たちの行政への参加を促し、さらに暮らしやすい地域社会を目指します。



④



①



⑤

- ①たくさんの「できた！」が子どもの自信を育てる
- ②ブルdeサルでは、浮き輪とゴーグルで必死にボールを追いかける
- ③ベビーバスケットはゆりかごがゴール。ユーモアにとんだ設定
- ④フラッグフットボール。タックルの代わりに腰に差した旗を取る
- ⑤走る、跳ねる等、基本的な動きを採り入れたゲームで自然と身体の動かし方を学ぶ



②



③



多文化交流スポーツイベントの参加者達。すっかり打ち解けた様子

スポーツからの学びは無限大。挑戦しよう、子ども達！

【事業名】新宿スポーツ環境推進プロジェクト

【団体名】一般社団法人 地域スポーツ推進クラブCriacao
【区担当課】地域振興部 生涯学習スポーツ課 【区負担額】3,300千円

■ イベント内容 (平成29年度実施分)

- ・スポーツ体験教室(かけっこ・フラッグフットボール・ラグビー・サッカー・野球・バスケットボール・ダブルダッチ・ダンス・ラクロス・フットサル)
- ・多文化交流スポーツイベントゆるスポーツ
- ・食育・栄養講習・調理実習
- ・走り方実践セミナー
- ・ジュニアスポーツ保護者・指導者セミナー

これまでのスポーツ体験教室では、サッカー、野球、ラクロス、ラグビー、かけっこ、ダンス等様々な種目を扱ってきました。

1年目は、小学生達に様々なスポーツを体験してもらうことに注力。2年目は、保護者や指導者向けセミナーを充実させ、指導方法や食事等子ども達を支える環境作りを行いました。そして3年目。多文化交流スポーツイベントの他に、かけっこ・ラグビー

100名を超える応募が

り運動できる場所がもっと必要なのではないか...そんな問題意識から始まった「新宿スポーツ環境推進プロジェクト」。いずれも一流の講師陣が指導し、子ども達が「スポーツの楽しさ」を発見しています。運動が苦手な子どもにも自信を、すでにひとつのスポーツに取り組んでいる子どもにも、他の競技を通して気づきや学びを伝えます。「スポーツを通して、子ども達の可能性を引き出し最大化したい」それが本事業の目的です。

1・フラッグフットボールの各教室、保護者や指導者向け走り方実践セミナーが好評でした。「3年目に入り、1回の申し込みが100名を超えることもありました」と、クリアソン代表理事丸山和太さん。新宿区との協働により、会場確保やイベント告知がスムーズになり、事業が区民に浸透してきたと実感しています。リピーターも多く、9割の参加者が満足度で高評価。

「思わぬ効果としては、パラスポーツへの理解という価値ある一歩になりました」。丸山さんと土田さんの目は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けられています。

一般社団法人 地域スポーツ推進クラブCriacao

スポーツに携わるあらゆる人たちの自己実現を支えていき、スポーツの普及及び育成に関する事業を行い、スポーツ文化の振興及び子どもの健全育成に寄与することを目的に活動している。

〒160-0022
新宿区新宿一丁目9-10 YKB東ビル2F
☎ 03(6709)9786 ☎ 03(6709)9787
✉ info@criacao.or.jp 🌐 http://criacao.or.jp/

ゆるスポーツで多文化交流に挑戦

これは「ブルdeサル」というフットサルで、最近話題の「ゆるスポーツ」の一つ。ゆるスポーツとは、老若男女、スポーツが得意な人・苦手な人、健常者も障害者も気軽に楽しめるスポーツのこと。

「ブルdeサル」は、プールサイドと同じく、走るのは禁止。ゴーグルは、弱視を疑似体験できるように見えずらい工夫がされています。ファウルのたびに、浮き輪が増やされ動きづらくなります。

一般社団法人地域スポーツ推進クラブCriacao(以下、クリアソン)と新宿区地域振興部生涯学習スポーツ課の3年目の協働事業で実施した「多文化交流スポーツイベント」のワンシーンです。

「新宿区は人口の1割強が外国籍で多様性に富んでいます。

浮き輪を身に着け、動きづらそうな子どもと大人達。中には外国人の姿も。ここは新宿スポーツセンターの体育館。一人がビーチボールを蹴り上げたものの、よく見えないのか、ボールはあらぬ方向へ。それでも、皆笑顔で声をかけてあげています。

す。その特性をスポーツでも活かしたいと考えていました。クリアソン理事の土田雄弘さんの思いが実りました。

「ブルdeサル」のほか、赤ちゃんに見立てたボールを優しくパスする「ベビーバスケット」を20名程度で行いました。ゆるスポーツは、勝負よりも触れ合い重視、ハンディを設定することによりスポーツ弱者や老若男女すべてが同じ土俵で楽しめます。

また、競技中にコミュニケーションを取るための言葉や挨拶を各国の言語で教え合い、その言葉を使つてのレクリエーションを実施。

参加者からは、「勝ち負けを意識せず楽しめた」「楽しみながら外国人と触れ合えた」との声。

子どもの可能性を広げたい

新宿区には小学生が思いき

活用しています! ルーペ「十文字」

Q 早大西門体育館通り商店会のラーメン店「十文字」は、頻繁にルーペの記事を更新中。ルーペを利用していかがですか?



A 「商店会に入るメリットの一つが情報共有。ルーペも、商店会の会長に勧められて利用し始めました。他のホームページ作成ツールと比べ、ルーペは手軽で簡単。美味しそうに写真を撮ったら、ルーペにアップ。やり

たいことがすぐにできる点が魅力です。しかも無料で利用できるのもとても助かります。今後もルーペを使い続けたいので、よりルーペが活性化して閲覧数が増えるといいですね。」



簡単に使いやすい!



新宿ルーペ

人と人のつながりを肌で感じられる!

学生インタビュー

Q ルーペのコンテンツ制作には、早稲田大学の学生も協力。商店街のイベント取材した廣瀬港大さん（政治経済学部3年）、吉崎瑠衣さん（法学部2年）に、インタビューしました。制作に協力していかがですか?

A 「様々な商店街の空気感を味わいたくて取材に参加しました。人と人のつながりを肌で感じ、まるで商店街が個性を持った人々のよう。祭りの動画を製作したり、インタビューの際に商店街に対する熱い思いに接したことが印象的です。ルーペは情報が集約されている点が良いと思います。」

を伝えたり、情報を充実させることが大切だとわかりました。ホームページを持っておらず、他のサイトにも掲載されていない、そんなお店もルーペには登録されており、

お店の魅力を伝えます。多くの商店会や店舗を草の根的に回り、現場の声に接してきたノープレスの田中大一さん。要望にどう応えるか? と新しいチャレンジはできないか。常に考える姿勢からは、商店街活性化への真摯な思いが伝わります。

ルーペの認知度の向上、商店会のICT知識の底上げ等の課題もあるようですが、個々の商店会、店舗に寄り添う熱意を感じました。

※平成30年1月末時点



①商店街のイベント取材する早稲田大学の学生たち。ルーペの活性化に一役買っています
②神楽坂通り商店会開催の神楽坂まつり。動画も見られます!



神楽坂まつりPV



<https://www.youtube.com/watch?v=csQR5Z8ITGo>

NPO法人 団塊のノープレス・オブリージュ

広く一般市民を対象として、とりわけ人生の新たなステージでの社会参加に意欲を持つ団塊世代を対象に、社会貢献へ向けての啓蒙・普及啓発活動や講習会・研修会等の社会教育事業、政策研究事業等を行い、団塊世代の活力を導き出し、少子高齢時代の中で明るい展望の持てる日本社会構築に寄与することを目的として活動を行っている。

〒169-0051 新宿区西早稲田1-4-14-201
TEL 03(3207)5074
E-MAIL dno-info@dankai.jp URL <http://www.dankai.jp/>



早稲田大学公認サークル まっちワークグループ早稲田 左から、吉崎瑠衣さん、廣瀬港大さん、鈴木博さん

本日は商店会日和なり 「新宿ルーペ」耳寄りな情報、あります!

【事業名】商店街ホームページ活性化事業

【団体名】特定非営利活動法人 団塊のノープレス・オブリージュ
【区担当課】文化観光産業部 産業振興課 【区負担額】2,760千円

商店街の魅力を伝えたい!

大都会新宿の商店会連合会には、いくつの商店会が加盟しているか、ご存知ですか? 答えは89。加盟する個店数は約4500店*にも及んでいます。商店会ではそれぞれに工夫を凝らしたイベントを開催しており、个性的なお店がたくさん並びます。しかし残念ながら、普段商店会やお店について知ってもらう機会が少ないのが実情です。

こうした状況をなんとかしたい。多くの人たちに商店街やお店の魅力を伝えたい! そんな思いから生まれたのがNPO法人団塊のノープレス・オブリージュ(以下、ノープレス)と新宿区文化観光産業部産業振興課が協働で実施する、「商店街ホームページ活性化事業」。

その一方、単に情報量や登録数を増やすだけではなく、個々の商店会や、店舗の特色

より求められる情報を!

事業は平成29年度で3年目。1年目と比べ、ページの情報量、登録店舗の数、ルーペの閲覧数は着実に伸びています。

「ホームページ」「新宿ルーペ」(以下、ルーペ)に各商店会や、個々の店が、イベントや店舗情報を掲載。それを一般の人に活用してもらうことが狙いです。ノープレスはルーペへの掲載を商店会や店舗に働きかけ、ICTに関する豊富な知識で技術面を支えます。また、早稲田大学の学生とのつながりを生かし、協力してイベント取材を行い、若い世代ならではの視点から商店会の情報を発信することで活性化につなげていきます。

晴れの休日。どこか行きたい、そんなとき。新宿ルーペを検索してみませんか? 「新宿ルーペ」とは、新宿区商店会連合会のお店の旬な情報を伝えるホームページ。商店街の活性化を目的とし、ホームページの作成・更新を支援する、商店街を愛する人々の活動取材しました。



- ①道路を塞ぐものがあると車椅子が進めないことを体験
- ②英語で受講できる救命入門コースのAED講習
- ③模擬消火器を使って火的的を狙う「的当てゲーム」は大人気!
- ④地域防災の担い手育成研修では要配慮者が多く避難してくる避難所の運営を体験



■ 防災フェスタの開催テーマ一覧

実施1年目 (平成28年度)	「若年層・ファミリー層・外国人等幅広い層が楽しく学べる防災」
実施2年目 (平成29年度)	「障害者等の要配慮者に対する防災対策」
実施3年目 (平成30年度)	「地域の防災区民組織との連携(予定)」

地域防災の担い手の育成事業では、志望者を募り、6月から10回以上の研修を実施。実技講習等充実した研修は初心者にも対応しています。「HUG(避難所運営ゲーム)要配慮者版」は障害者と関係者60名が8組に分かれ、避難者の受け入れ、想定外の出来事等に対処しながら避難所を運営して

一般社団法人 ピースポート災害ボランティアセンター

国際交流NGOピースポートが行ってきた阪神・淡路大震災以降の災害支援のノウハウを引き継いで2011年に独立した一般社団法人。東日本大震災では、宮城県石巻市での活動を中心に約9万人の災害ボランティアをコーディネートした。その後も熊本地震、ナパール地震等の被災地で災害救援を行う。平時には、全国で災害ボランティアの人材育成や防災・減災教育、研修・講演等を開催している。

〒169-0075 新宿区高田馬場3-13-1-2F
☎ 03(3363)7967 ☎ 03(3362)6073
✉ kyuen@pbv.or.jp http://pbv.or.jp/

ボランティアから 防災の担い手へ

当事者が体験したい防災訓練は、可能な限り参加してもらいました」とPBV理事の合田茂広さん。また、車椅子やアイマスクでの避難体験参加者は、車椅子を動かす難しさ、感触と音を頼りに歩く不安さを体験しました。「障害者と活発に意見を交わして準備しました。当事者自身がどんなことを身に付けたいか、どんなことを周囲にしてもらったかを話し合ったからこそ、みんなが楽しく学べる防災フェスタにできました」とPBVの井上綾乃さん。

「この事業が目ざされてモデルとなり地域を越えて広がってほしい。防災意識の高まりは地域防災にとって大きな強み。多くの命を救うことにつながります」と合田さん。命を守るため、日頃の備えが大切です。

防災フェスタが 新しい地域防災に

いく実践しながらの研修でした。障害者から「もっとそれぞれの特徴や個性に目を向けて」との声も。彼らと一緒に考えていく大切さ、様々な人が集まる避難所運営の難しさを体験しながら、地域防災の担い手を目指す研修を終えました。

防災対策の大切さに 気づいてほしい

いつ起きても不思議ではない首都直下地震。都内では、15万人以上の死傷者が出ると想定されています。地域の自主防災訓練は有効な対策の一つですが、仕事や子育てに忙しく、参加できない人もいます。自分や家族を守るために、防災の知識を持って欲しい。知識を持っていてくれる人が多くいればお互いを助け合える。そんな思いから、一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター(以下、PBV)と、新宿区危機管理担当部危機管理課(以下、危機管理課)が協働で、「地域防災の担い手育成事業」を平成28年度から実施しています。

障害者が積極的に 参加できるフェスタに

事業2年目の「しんじゆく防災フェスタ2017」は平成29年9月3日に開催されました。ボランティア266名とともに、多くの関係団体も参加。リアルな防災体験や情報が得られたと大盛況でした。「約3000名が来場した1年目に続き、2年目は3200名が来場。防災への関心の高さを感じました。フェスタでの学びを基に自宅や家族で備えてもらえれば、生命と財産を守ることにつながると思います」と危機管理課の浅井友翔さん。

うこと。2つ目は地域防災の担い手育成です。

楽しく学ぶ防災イベント ～命を守るための第一歩～

【事業名】地域防災の担い手育成事業

【団体名】一般社団法人 ピースポート災害ボランティアセンター
【区担当課】危機管理担当部 危機管理課 【区負担額】3,300千円

防災フェスタでは、子ども達がゲーム感覚で防災の知識を身につけられるコーナーも。「毛布で担架タイムトライアル」では、けが人を救出する想定で競走。



- ①地域の高齢者が集まる「ほっとサロンのき」での普及啓発活動
- ②歌って踊れる嚥下体操に取り組み参加者
- ③普及啓発活動での配布物は高齢者でも分かりやすいよう作られています
- ④ごっくんチェック表



食べる幸せをいつまでも
 ~“口から食べる”をサポートします~

嚥下障害という言葉を聞いたことがありますか？
 年齢や病気によって、食べた飲み込みが難しくなることが増えてきます。場合によっては、肺炎や窒息事故につながることもあります。また、うまく食べることができなくなることで、栄養不足になることもあります。

早めに気づき、対応をすることがとても大切です。

まずは、あなた自身や家族、まわりの方の症状をチェックしてみましょう。

ごっくんチェック表

- 3ヶ月以内に嚥下と判断されたことがある
- 6ヶ月間で2~5kg以上の体重の減少があった
- お薬や付随薬を飲む必要がある
- のどに食べ物が残る感じがする
- 食べるのが遅くなった
- 半年前と比べて硬いものが食べにくい
- 口の潤いが減る



生涯口から食べることができるまちづくりを！

【事業名】地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト

【団体名】特定非営利活動法人 メディカルケア協会
 【区担当課】健康部 健康づくり課 【区負担額】3,300千円

ビスの会や高齢者サロン、おまつりといったイベント等に
 出向いて普及啓発活動を実施
 しているそうです。健康教育
 や、嚥下体操・ごっくんチェ
 ック表の紹介と実施、相談窓
 口の案内等を行います。日頃
 から高齢者が集まっている場
 所を活動の場とすることで、
 効果的な啓発活動が行えます
 。

こうした高齢者サロンやイ
 ベント等の普及啓発活動を行
 う中で、ごっくんリーダーに
 なってくださる地域の方々を募
 っているところです。本事業
 の取り組みや口腔機能の維持
 向上の大切さを伝えるだけで
 なく、身近な高リスク者を相
 談窓口につなげる役割も期待
 されるごっくんリーダー。既
 にごっくんリーダーになって
 くれることが決まった区民の
 方々もおり、連携して取り組
 む啓発イベントの開催も予定
 しているそうです。

ツールの開発についても、
 楽しみながら摂食嚥下の機能
 を維持向上できる歌と体操の
 制作に取り組んでいます。
 歌と体操は医師や言語聴覚
 士等の専門家からなる開発チ
 ームを中心に制作。制作にあ
 たっては、地域の高齢者や連

特定非営利活動法人 メディカルケア協会

「年齢を重ねても、住み慣れた地域や自宅が最後まで自分らしく生き生きと暮らし続けられるように」を理念に活動。居宅サービス事業や啓発活動、患者の声を反映した商品の開発等を、企業や自治体、病院、介護施設等とのコラボレーションにより実施している。

〒136-0071 江東区亀戸2-6-6
 ☎ 03(3682)6962 ☎ 03(3682)6962
 ✉ nomikomil10@engechan.com

携団体からの意見も取り入れ
 るほか、歌詞に新宿の地名を
 入れて、親しみやすい体操づ
 くりを目指しています。

生涯口から食べることが できるまちづくり

協働を通じて目指すのは、
 高齢者が生涯にわたって口か
 ら食べることができるまちづ
 くりの実現。ごっくんリー
 ダーの多くは地域の方々。自
 分だけでなく周りの方々にも
 伝えていただき、地域全体で
 共有していただけることを期
 待しています」と小野さん。

開始1年目の本事業ですが、
 高齢化社会と言われる現代で
 まさに必要とされている事業
 だと感じました。

効果的で親しみやすい 普及啓発を

本事業は、「区民への普及
 啓発活動」「ごっくんリーダ
 ーの育成」「ツール（歌って
 踊れる嚥下体操等）の開発・
 活用」の3つの柱から成りま
 す。

地域の高齢者向け食事サ-

「ごっくんリーダー」が 地域の力で普及啓発活動

「誤嚥性肺炎」とは、食べ
 物等口から食道へ入るべきも
 のが気管に入ってしまう「誤
 嚥」によって起きる肺炎のこ
 とです。日本人の死亡原因に
 占める肺炎の割合は年々高ま
 っています。一方で、日常生
 活の中で食べることに悩みや
 不安があっても、加齢のせい
 と判断をして放置してしまう
 高齢者が少なくありません。
 そのため、当事者が摂食嚥
 下（食べて飲み込むこと）に
 ついての正しい知識を身に付
 けるとともに、周囲の人が異
 変に気づいたりできるよう、
 普及啓発が課題となっていま
 す。

そこで、新宿区健康部健康
 づくり課と特定非営利活動法
 人メディカルケア協会（以下、
 同協会）が協働で実施してい
 るのが「地域の担い手『ごっ

肺炎が高齢者の死亡原因第3位、そしてその原因の7割
 が、飲み込みが原因の誤嚥性肺炎という事実を知っていま
 すか？ 誤嚥性肺炎を防ぎ、高齢者が生涯にわたって口か
 ら食べることができるまちづくりを目指す。それが「ごっ
 くんプロジェクト」です。

「ごっくんリーダー」による『食べ
 る力』推進プロジェクトです。
 同協会理事の小野有香さん
 は、本事業開始前から、区
 が行う支援事業「摂食嚥下機
 能支援検討会」に委員として
 参加、高齢者の食べる力の維
 持・向上のための楽しいツ
 ール作りや啓発活動を行ってき
 ました。「これからは主体的
 に取り組んでくださる区民
 『ごっくんリーダー』を中心
 に地域の力で摂食嚥下の普及
 啓発活動が展開されることを
 目指していきます」と小野さ
 ん。

新宿区内の企業や団体、NPOと新宿区が協働して、地域の様々な課題解決のために活動する「新宿区協働事業提案制度」。実際に事業に関わっている人達に、協働してみようだったのか、協働ならではの利点や課題を聞きました。

「協働」だからできたこと

区と団体に
聞く

事業名 地域防災の担い手育成事業

新宿区より

団体の柔軟な発想と 専門性で質の高い事業に

地域ではリーダーの高齢化や協力者の偏在化が大きな課題となっています。PBVは、楽しく防災が学べるイベントで防災を根付かせようという発想が新しい。楽しんで体験した防災は記憶に残りやすいと思います。また、担い手育成事業で質の高い研修による人材育成を実施できたことは、協働の成果だと思います。

団体より

協働ならではの集客力 連携の輪も広がった

被災地の支援活動の経験から、地域防災は大切と伝えたい。多くの人が集まる楽しいイベントが防災を知るきっかけになればと考えました。防災フェスタでの豊富なプログラムも協働だからできたこと。3年目は他部署からの連携の申し出が増えたことで嬉しい悲鳴を上げながら、どう舵取りをしていくかが最大の課題です。

左から、新宿区危機管理担当部危機管理課浅井友翔さん、一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター井上綾乃さん、理事合田茂広さん



事業名 新宿スポーツ環境推進プロジェクト

新宿区より

レベルの高いイベントを 実施、参加者増加へ

実は、新宿区側担当者にはほとんどスポーツ経験がなかったんです。それでもスポーツを広げる企画ができたのは、クリアソンの一流指導者との人脈や企画協力があったからこそです。区だけではここまでレベルの高いイベントは開催できませんでした。多くの子ども達や保護者の方が期待を寄せてくださり、やりがいを感じます。

団体より

区ならではの視点・ 意見を、企画に活用

スポーツ未経験の区の職員の方から、率直なアドバイスをいただけたのが大変貴重でした。アスリートだけの運営では気づかない点が多く、初心者が参加しやすい工夫につながりました。初めてのスポーツこそ、良い指導者から学ぶことが大切です。協働事業集大成の3年目、参加者の裾野が広がったと実感しています。

左から、一般社団法人地域スポーツ推進クラブCriacao代表理事丸山和夫さん、理事土田雄弘さん、新宿区地域振興部生涯学習スポーツ課森嶋朱美さん



事業名 地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト

新宿区より

楽しい健康教育と ネットワーク力に期待

摂食嚥下機能支援については医療・介護関係者からのアプローチからスタートして、飲み込みチェックシート等で問題のある人を対象に実施していました。しかし、その前の段階で防ぐための体操や啓発をメディカルケア協会と協働で取り組むことにより区民への浸透が期待できそうです。

団体より

医療専門チームとの 連携が力に

健康づくり課の持つ信用力で医療専門家との連携をスムーズに行うことができました。専門家の先生方と作成したツールをもとに、地域の方と一緒に楽しみながら継続できる、嚥下の歌と体操を広く普及したいと思います。そしてそれにより生涯口から食べられるまちづくりを目指します。

左から、新宿区健康部健康づくり課主査小川智詠子さん、特定非営利活動法人メディカルケア協会理事小野有香里さん、新宿区健康部参事（地域医療・歯科保健担当副参事事務取扱）矢澤正人さん



事業名 商店街ホームページ活性化事業

新宿区より

区民目線を活かした 事業ができた

区民の皆さんが商店街をもっと知って、足を運んでほしい。その思いがこの事業の始まりですが、ノーブレスさんには、区民目線・商店会目線で話をしてもらえ、まさに協働の意義を感じています。本音の付き合いを続けて3年目。成果が出せたのはこのチームだからこそ。今後も、繋がりを続けられればと思います。

団体より

区の協力で 広報力がアップ

協働3年目の今年、区の産業振興課が各店舗向けに発行している「新宿商人」という冊子にルーベの紹介が載ることに。ルーベをもっと活用してもらうには、まず各店舗にルーベの存在を知ってほしいと考えていた矢先のこと。皆の思いが一つにつながった、印象的な出来事。本音の付き合いが生んだ、協働の大きな成果ですね。

左から、新宿区商店会連合会事務局長 佐藤雅英さん、特定非営利活動法人団塊のノーブレス・オブリージュ 田中大一さん、新宿区文化観光産業部産業振興課産業振興係主査 桑野明さん、高井剛さん



ほかにもこんな協働事業！

新宿区では、NPOや企業、区民等と協働して様々な事業を行っています。
あなたの身近のこんな活動も「協働事業」なんですよ！



「新宿の森」でいきいき環境体験！ ストップ、温暖化！

【事業名】地球温暖化対策の推進 区が取り組む地球温暖化対策
【区担当課】環境清掃部 環境対策課 【TEL】03(5273)3763

緑の森から新宿区の環境
対策を発信します。

便利な生活が一因とされる地球温暖化。近年の異常気象による災害等、その影響は計り知れず、温暖化対策は私たち一人ひとりに対する課題です。そこで新宿区は、長野県伊那市、群馬県沼田市、東京都あきる野市と協定を締結し「新宿の森」を開設。区民と協働し、これらの森の整備を通じて地球温暖化対策に取り組んでいます。区内で発生したCO₂を森が吸収するCO₂で相殺します。平成28年度は3つの森合計で、445.5

tのCO₂を吸収！
3つの森への自然体験ツアーとして企画されるこの取組には、多くの親子が参加。下草刈りや間伐といったエコ体験を通じ、親子で楽しみながら環境対策の重要性を体感！参加者には「新宿エコ隊」への登録を依頼。ツアー終了後も日常的に省エネ行動に取り組んでもらいます。ツアー内では草木染めや自然観察等の企画も。区と、3つの森が開設されている各自治体の密接な連携が、魅力的な企画を生み出します。取組が大きな人気を集める秘訣です。



①下草刈りの様子(沼田市)。森を育てるためには欠かせない作業です
②のこぎりの使い方を教えてもらいながら実際に木を切ってみます(伊那市)
③草木染の様子(伊那市)。どんな模様になるのかな？



誰もが安心して 楽しめる街へ

【事業名】客引き行為防止等の防犯活動強化
【区担当課】危機管理担当部 危機管理課 【TEL】03(5273)3532

客引き根絶に向けて
パトロール隊を発足

日本一の繁華街・新宿歌舞伎町。外国人観光客にも人気がありますが、観光地ならではのトラブルも。客引きについて行って、高額なお金を請求されるといった例が後を絶ちません。

このような状況を打開すべく、新宿区は町会自治会、地域団体、商店街振興組合や警察と協力し、「新宿区安全・安心パトロール隊」を発足。店舗や来街者に呼びかける等、

客引き行為の根絶に向けて取り組んでいます。

同時に、区では客引き防止条例を強化。勧告に従わない店舗名を公表し、5万円以下の過料を科すことを定めました。また、この改正や、区が認定する「客引きしない宣言店ステッカー」制度を発信すべく、地域と力をあわせて「新宿イメージアッププロジェクト」を実施しました。様々な人を魅了する歌舞伎町。多くの人たちに安心して来訪してもらえよう、今夜もパトロールは続きます。

①新宿区、警察署、商店街が一体となり、客引き根絶に取り組む
②「新宿イメージアッププロジェクト2017 LIVE! カモン新宿!」。「ぼったくりイマイヤ音頭」の嘉門タツオ氏と、「ぼったくりす」とのスペシャルライブで客引き防止を訴えた



若者同士の交流のほか
地域参画へのきっかけにも

「新宿区若者のつどい2017」が、平成29年12月9日(土)新宿文化センターで開催されました。平成23年度から実施されている同イベントは、新宿区子ども家庭部男女共同参画課と区内の企業やNPO、地域活動団体等との協働によるもの。主に20代30代の若者を対象に「新宿の魅力」を伝え、新宿の多様性を知り、団体や行政等との交流の機会を提供しさらには地域参画に



新宿の魅力を伝える 屋内フェス

【事業名】若者のつどい
【区担当課】子ども家庭部 男女共同参画課 【TEL】03(3341)0801

関心を持ってもらうことを目的としています。

新宿区ゆかりのアイドルによるライブや、アスリートによるトークショー、新宿写真展等、楽しい出し物が盛りだくさん。そのほか、区内の企業や団体の活動を知ってもらうために、地場産業展示、職業相談、ビジネス講座、地方自治体紹介等のコーナーも設置されました。



①イベントにはゆるキャラも多数参加して会場を盛り上げた
②入口付近では「新宿の魅力」を伝える出展者たちからの呼び込みの声が響きわたった



「協働事業提案制度」が生まれ変わります！

新宿区では、平成30年度からの新総合計画のスタートにあわせ、協働に関する様々な取り組みの見直しを行い、新たな支援制度を開始する予定です。

新支援制度のポイント

- 従来の「NPO 活動資金助成」と「協働事業提案制度」は協働推進基金を原資とした助成制度になります。
- 「協働推進基金助成金」には、団体が単独で実施する事業へ助成する「一般事業助成」と区と団体が協働で実施する事業へ助成する「協働事業助成」の2種類があります。
- NPO 法人、ボランティア活動団体等の営利を目的としない団体が行う区民を対象とした社会貢献事業に助成します。

「協働推進基金助成金」は、
 区の財源とみなさんからの寄附金からなる
 「新宿区協働推進基金」を原資とします。
 皆様のご寄附により、
 様々な社会貢献活動が行われます。
 ぜひ寄附のご協力をお願いします！



協働推進基金

検索

助成金の募集期間や応募要項等、詳細は区公式HPや広報しんじゅく等で随時お知らせします。



イラスト提供

編集後記

- 色々な人が関わって、その中から素晴らしい活動が生まれる。そんな実感です。(マル)
- イラスト、写真、言葉、そして思い。4次元の紙面を作れたら。(R)
- 作る過程の楽しい反面生みの苦しみも編集会議は刺激的。次回もこのメンバーで再会希望。(青)
- 来年どうする？既にやる気の編集会議。協働精神ここにあり。感動。(たま)
- 夢は大きく、目指すのは「世界の分断を埋める仕事」。新宿から始まるといいな。継続参加を熱烈希望！(上沢)
- まだまだ慣れない取材と原稿作成。わかりやすく伝えることは本当に難しい。(Y)
- より良くしたく。2年目の私も他のメンバーも、だれかの役に立ってなんだかうれしいな。心身進化中。(野口)

「Let's 新宿 協働」
 は、新宿区が行っている「協働事業提案制度」について広く知っていただくために、新宿区民からなる協働事業紹介冊子編集講座の受講生が、区民目線で、読みやすくわかりやすい読み物を目指して制作しました。

新宿区協働事業提案制度による平成29年度実施事業のご紹介 「Let's 新宿 協働」 平成30年2月発行

【編集・発行】新宿区地域振興部地域コミュニティ課 新宿区歌舞伎町一丁目4番1号

TEL: 03-5273-3872 URL: <http://www.city.shinjuku.lg.jp/>

【印刷・製本】あかつき印刷株式会社 〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷4-25-2 TEL: 03-3497-0531

【編集】石井栄子(いしふる) 【デザイン・DTP】大野佳恵 【表紙イラスト】品玉ちなみ

印刷制作番号 2017-17-2061

この印刷物は業務委託により3,000部印刷製本しています。その経費として、一部あたり66.66円(税別)がかかっています。ただし、編集時の職員人件費や配送経費等は含んでいません。